

# 小施策評価シート (平成 28 年度実績評価)

施策コード	11	施策名	歴史・文化の継承		
小施策コード	11-1	小施策名	文化財の保護と活用		
小施策 主管課等コード	204500	小施策 主管課等名	歴史文化課		
評価責任者名	杉本 浩		内線番号	7350	
評価シート作成者名	福田 淳		内線番号	7351	

## Step 1 施策目標の達成状況

まちづくり指標	目指す 方向	単位	25年度 実績 (当初値)	27年度 実績	28年度 実績	31年度 目標値	36年度 目標値
文化財数 (国・県・市指定)	↑	件	270	271	273	276	281
まちづくり評価アンケート調査「盛岡の歴史・文化財に興味関心がある」と答えた市民の割合	↑	%	58.6	56.7	56.8	61.8	65.0

(↑：数値を上げていくことを目標とする指標， ↓：数値を下げていくことを目標とする指標， →：数値を維持することを目標とする指標)

## Step 2 小施策の全体像

### 小施策の概要等（構成事業は別紙ロジックモデルシートのとおり）

対象（誰（何）を対象として行うのか）	意図（対象をどのようにしたいのか）
市民，文化財	地域の貴重な文化財を次世代に伝える。
現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内に所在する有形文化財や天然記念物などは，後世に引き継いでいくため，収集，記録保存及び周辺環境を含めた維持管理に努める必要がある。また，地域に受け継がれている有形民俗などの文化財については，市民の歴史学習や地域学習のほか，世代間交流やまちの活性化のため幅広い活用を図る必要がある。</li> <li>無形民俗文化財は，伝承基盤が確立している保存団体がある一方で，深刻な後継者不足に直面している団体もあり，保存団体の特性に応じた対策が求められている。</li> <li>遺跡などの埋蔵文化財については，各種の開発事業との調整を図るとともに，出土した埋蔵文化財の適切な管理や保存，調査を進め，その成果の公開に努める必要がある。</li> <li>志波城跡や盛岡城跡などの史跡については，基礎調査や整備・活用を計画的に進める必要がある。</li> </ul>
取組の方向性	文化財指定の有無にかかわらず，有形文化財や無形文化財，民俗文化財，記念物，埋蔵文化財などの保護を適切に進めるとともに，市民がより歴史や文化に興味をもてるように，文化財の幅広い活用を図る。

## Step 3 小施策指標の推移

小施策の指標	目指す方向	単位	25年度実績 (当初値)	27年度実績	28年度実績	31年度目標値	36年度目標値
文化財数（国・県・市指定）	↑	件	270	271	273	276	281
市保存建造物数	→	件	23	23	23	23	23
文化財（未指定も含む）累積調査件数	↑	件	9,601	9,677	9,703	9,651	9,701

（↑：数値を上げていくことを目標とする指標，↓：数値を下げていくことを目標とする指標，→：数値を維持することを目標とする指標）

## Step 4 市民ニーズの把握

- まちづくり評価アンケート調査「盛岡の歴史・文化財に興味関心がある」と答えた市民の割合は，56.8パーセントとなっており，各施策の更なる推進が必要と考えられる。
- 遺跡の学び館では，映像等を使用した，より分かりやすい展示方法の要望を受けている。

## Step 5 役割分担分析

### 1 各主体の役割の状況

		役割の内容	役割分担比率 (%)
各主体の役割の状況	市	文化財保護法と条例に基づき、各種施策の実施	30
	国・県・ 他自治体	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化財保存と活用のため、自治体への補助金、起債等財政支援措置の実施</li> <li>国指定文化財の管理、自治体への指導等文化財保護法の推進</li> </ul>	30
	市民・ NPO	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化財の所有者として、保存管理</li> <li>所有文化財の公開、保持団体としての継承</li> </ul>	20
	企業・ その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化財の所有者として、保存管理</li> <li>所有文化財の公開、保持団体としての継承</li> </ul>	20

### 2 今後の市の役割の比重の方向性とその理由

- 市の役割の比重を拡大していくことを検討する  
 現状維持（現在の市の役割の比重を維持する）  
 市の役割の比重を縮小していくことを検討する

（理由）

文化財の保護と活用については、文化財保護法に、政府及び地方公共団体の任務、文化財の所有者その他の関係者の心構えが定められている。今後も、この施策を推進するにあたっては、関係法令の趣旨も踏まえ、市の役割は現状維持とするもの。

## Step 6 前年度に分析した課題・改革改善案に対するアクション

### 1 平成28年度に分析した問題点・課題に対する改革改善案

- ・ 無形民俗文化財保存連絡協議会内で後継者不足団体への担い手の紹介等支援策を実施する。
- ・ 文化財の修繕、保存・維持・環境整備のための事業について、これまで以上に町内会等地元市民を活用した事業を増加するように努める。
- ・ 地域課題解決プログラムをはじめとする大学との協働研究事業等に参加する。
- ・ 国の財政的支援措置を得るため、歴史まちづくり法に基づく歴史的風致維持向上計画の策定に取り組む。
- ・ 出土資料の活用頻度によりランク分けし、ランクごとに再配置を行う（活用頻度の低い出土資料は棚間収蔵する）。

## 2 1の改革改善案の実施状況

(A：着手済, B：平成29年度に着手(予定含む), C：未着手または見送り)

改革改善案	具体的な取組(予定)内容	状況
無形民俗文化財保存連絡協議会内で無形民俗文化財の担い手の紹介等支援策を実施する。	青少年に特化した郷土芸能フェスティバルや次世代のためのリーダー研修会の開催等により後継者育成等を図った。	A
文化財の修繕, 保存・維持・環境整備に, これまで以上に町内会等地元市民を活用した事業を増加する。	県指定天然記念物山岸のカキツバタ群落については, 地元保存会による環境保全作業を実施した。	A
地域課題解決プログラムをはじめとして大学との協働研究事業等に参加する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>国指定特別天然記念物カモシカの伝染病対策について, 岩手大学と協働研究を行った。</li> <li>国登録記念物南昌荘庭園について, 岩手県立大学との協働研究により, メディアシステムによる3Dデータ等の記録保存を行った。</li> </ul>	A
国の財政的支援措置を得るため, 歴史まちづくり法に基づく歴史的風致維持向上計画の策定に取り組む。	計画策定に向け庁内関係課による会議を開催し計画の検討を行ったほか, 国に協議を行った。	A
出土資料の活用頻度によりランク分けし, ランクごとに再配置を行う(活用頻度の低い出土資料は棚間収蔵する)。	出土資料を活用頻度により分類し, 頻度の高い資料は手前に, 低い資料は奥に配置するなど, 棚間収蔵の方法も含め再配置に取り組んだ。	A

## 3 2で挙げた取組状況がCの場合, その原因

### Step 7 成果・問題点の把握

#### 1 成果の把握と要因分析及び課題の設定

##### (1) 小施策の中で成果をあげた点

- 一部の民俗芸能保持団体では, 後継者が増えた。
- 志波城跡公園来園者数が, 平成27年度と比較し2,774人(14%)増加した。
- 埋蔵文化財について, 開発事業者との調整, 発掘調整, 整理作業が適切に行われた。

##### (2) 成果をあげた要因

- 民俗芸能保持団体の後継者不足の対策として, 市と無形民俗文化財保存連絡協議会が連携し, 青少年郷土芸能フェスティバルや, 次世代のためのリーダー研修会を開催することにより, 後継者の確保・育成に努めたこと。
- 志波城古代公園は, 第Ⅲ期整備事業が完了し, 来園する市民等の古代城跡への理解を深める環境が整ったほか, 一方で積極的なPRと活用策の実施に取り組んだこと。
- 埋蔵文化財については, 文化財保護と開発事業との調整(124件)や, 発掘調査(13件)のほか整理作業(6件)の迅速化を図り効率的に施策を推進したこと。また, 蓄積された既往の調査成果の活用(展示会)や発掘調査現場の積極的公開を実施したこと。

### (3) さらなる成果向上に向けた課題（課題がある場合に記載）

- ・ 無形民俗文化財について、今後も引き続き後継者の確保・育成に努める必要がある。
- ・ 盛岡市歴史文化基本構想に基づき、文化財や歴史資源を活用したまちづくりを推進する必要がある。
- ・ 安倍館遺跡の史跡指定に向け、遺跡等を学術調査する必要がある。
- ・ 史跡等の歴史的価値を保全するため、保存・環境整備等の措置を講じる必要がある。

## 2 問題点の把握と原因分析及び課題の設定

### (1) 小施策における現状の問題点

- ・ 後継者不足に悩む民俗芸能保持団体が、まだ多く存在している。
- ・ 志波城跡保存整備事業について、長期にわたる保存管理計画、用地取得計画について安定、継続した財源の確保が必要である。
- ・ 有形文化財等の保存、修繕のための経費が不足している。
- ・ 適切な埋蔵文化財出土資料の収蔵・保管体制の構築が必要である。

### (2) 現状の問題点が生じている原因

- ・ 民俗芸能保持団体における後継者不足は、少子高齢化、中山間地の人口減少の影響が大きいと考えられる。
- ・ 志波城跡保存整備事業について、国庫補助金の交付決定額が当初の見込額を下回る事態が発生し、事業が長期化している。
- ・ 有形文化財等の保存、修繕に係る予算の財源確保が難しくなっている。
- ・ 埋蔵文化財の発掘調査に伴い、出土資料数が増え続けている。

### (3) 分析した原因の解決に向けた課題

- ・ 民俗芸能保持団体の後継者不足について、後継者数の減少を抑え、存続が危ぶまれる団体の後継者を増やす方策の検討が必要。
- ・ 志波城跡保存整備事業について、限られた予算で事業を進める方策の検討が必要。
- ・ 有形文化財等の保存・修繕の財源確保のため、国・県への補助要望活動や、市の予算編成の検討が必要。
- ・ 埋蔵文化財出土資料の収蔵施設確保の検討が必要。

## Step 8 小施策と構成事業の関係性

### 1 小施策との結び付きが弱い、もしくは他の事業と重複していると考えられる事業

該当事業なし。

### 2 1で記載した事業についてその理由

### 3 1で記載した事業の今後の方向性（案）（縮小・廃止・統廃合等）

## Step9 Step7, 8を踏まえた改革改善案

- ・ 民俗芸能保持団体の後継者不足について、無形民俗文化財保存連絡協議会と連携しながら後継者不足団体への支援対策を講じる。
- ・ 志波城跡保存整備事業について、地域課題解決プログラムをはじめとする大学との協働研究事業等へ参加する。
- ・ 有形文化財の保存・修繕のため、町内会等地元住民への協力要請を図るほか、国からの補助も考慮しながら「地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律（歴史まちづくり法）に基づく歴史的風致維持向上計画の策定に取り組む。
- ・ 埋蔵文化財発掘の出土資料を活用頻度によりランク分けし、ランクごとに再配置を行う（活用頻度の低い出土資料は棚間収蔵に移す）。